

松波小学校だより

第3号
令和6年6月28日
能登町立松波小学校

ことばを大切に！

夏休みという言葉が会話の中にも聞かれるようになり、夏の訪れと1学期の終盤を感じさせる頃となりました。ようやく松波小学校仮設校舎の建設も始まり、毎日、工事の進捗状況を見ている子どもたちもいます。被災した松波小学校も次なるステージへと踏み出せそうです。子どもたちは毎日「学びの栄養」を吸収し、ぐんぐん成長をしています。また、ご家庭での温かい声かけも支えとなり、明るく元気に登校をしています。笑顔が輝く優しい子どもたちです。

現在松波小学校では、「学び合いを通してよりよい考えを表現することができる児童」を目指して学習指導を行っています。それは、アクティブラーニングの視点から【主体的・対話的で深い学び】をいかに実現していくかです。アクティブラーニングと言えば、呼吸（空気を吸って吐くこと）と同じでことばのインプットとアウトプットです。ことばを取り込んで考え、話し、グループ交流から考えを再構築し、更に全体交流で考えの深まりを図ります。授業研究では、深める場面での話し合いの視点と考えをまとめていくうえでどんな言葉がけをすると効果的なのか工夫しています。

最近、「ことば」について考えさせられることがよくあります。教育活動の指導の中で、学級の子どもの関わり合いの中で、社会生活の中で、自分の考えや気持ちを相手も気遣いながらどのように伝えたいのかです。ことばを大切に、伝えるセンスを磨くことが課題と考えます。

※フリーキャスターの横田幸子さんの講演会「言葉のチカラ」より

- ・言葉には力があるのです。目に見えないエネルギーを持っています。あたたかい言葉は、うれしく、励まされ、元気になります。絆をつないでいきます。
- ・人にエネルギーを与える光の言葉があります。光の心にしてくれます。一生懸命な心、思いやる心、これら創り出す心を育ててくれます。言葉は、人の心に刺さる刃になることもあります。人は、嫌なことを言われると敏感で、傷つけることを言うのは鈍感です。闇の言葉で、闇の心になります。なまける心、意地悪な心は自分を壊す心です。
- ・闇の言葉ではなく、光の言葉を使っていかなければいけません。光の言葉をかけられるとやる気が出ます。「たすかるよ」「えらいね」「がんばってるね」「すごいね」どんどんやる気がでてきます。「どうせ」「だって」「でも」の3D言葉が出るようなら闇の心になっているかもしれません。そんなときは光の言葉に変えて、光の心になるようにしていきましょう。
- ・何かを発するのなら、それはマイナスエネルギーではなく、プラスのものを発信していきたいですね。使い方を間違えると刃にもなるものですが、やはり言葉であたたかい気持ちになり、勇気ももらえたりします。自分がされてうれしいことを相手にも心がけていきたいですね。

「輝く笑顔」に「光の言葉」を上乗せし「光の心」で学校生活を送ることができればと思います。松波小学校の教育活動が、ますます充実するよう保護者や地域の皆さまのご理解ご協力をよろしく願います。

松波小学校 校長 宮本 秀人